



T10S SUBWOOFER

操作マニュアル JP



おめでとうございます！

新しいADAMオーディオT10Sサブウーファーをお買い上げいただき、ありがとうございます。本製品は高度なトランスデューサー、信号増幅、信号処理およびラウドスピーカーキャビネット技術の20年にわたる当社の研究の集大成です。信頼できるパフォーマンス、卓越した低域再生能力、優れたトランジェント応答、そして色付けのない明瞭さとディテールの正確な再現を特徴とする、プロフェッショナルなリファレンス・サブウーファーが生まれました。

T10Sアクティブ・サブウーファーは、あらゆる広さの部屋に設置できる大きさと、音楽、オーディオ制作そして動画のポストプロダクションに使用できる信頼性の高い低域再生装置です。信頼できる正確な再生能力を長期間にわたってご使用いただけます。

このマニュアルは、本サブウーファーの接続、設置、使用方法、そして作業環境にベストフィットさせる調整方法について説明しています。また、新しいサブウーファーを設置する際によく遭遇する問題の解決方法も説明しています。

製造元の連絡先情報と完全な技術仕様も参照用に掲載しています。それでも解決できない問題や、マニュアルに答えが掲載されていない不明な点がある場合は、ご購入された地域の輸入代理店もしくは販売店に連絡するか、ベルリンのサポートチーム support@adam-audio.de まで電子メールでご連絡ください。弊社のスタッフがいつでもお客様のご質問にお答えしサポートさせていただきます。

新しいT10Sサブウーファーで充実した音楽生活を末永くお楽しみください。

ADAM Audioチーム

目次

	ページ
おめでとうございます!	1
目次	2
1. 重要な安全に関する注意事項	3
2. T10S SUBWOOFER のご紹介	5
3. サブウーファーの最適な配置	6
4. 機能	10
5. オーディオ接続とレベルの設定	13
6. 背面パネルのクロスオーバー、位相、レベル、リモートコントロールを使う	16
7. トラブルシューティング	18
8. メンテナンス	19
9. 運送	19
10. 環境情報	20
11. EU適合宣言書	20
12. 保証条項	21
13. 技術データ	22

1. 重要な安全に関する注意事項

システムをセットアップする前に、以下の安全上の注意をお読みください。今後必要になった時のためにこのマニュアルを保管しておいてください。警告に注意して指示に従ってください。



ご注意:感電の危険を減らすために、スピーカー内部は開けないでください。内部にユーザーが修理できる部品はありません。資格のあるサービス担当者に修理を依頼してください。

指定された以外の値や型のヒューズと交換しないでください。ヒューズは決してバイパスしないでください。

本製品はユニバーサル電源を備えており、50/60 Hzで100～240 Vの範囲のAC電圧で自動的に正常動作します。

-  ケーブルを接続または取り外す前、またはコンポーネントを清掃するときは、常にシステム全体の電源を落として本製品と電源の接続を外してください。
-  電源コードを踏まないように保護してください。特にプラグ、ソケット、および装置の外側に出ている部分を傷つけないようにしてください。
-  雷雨のときや長期間使用しないときは、装置のプラグを抜いてください。電気機器は子供の手の届かないところに保管してください。
-  本製品を雨や湿気にさらさないでください。内部を液体で濡らしたり、液体を直接本装置に流したりこぼしたりしないでください。スピーカーの上面に液体を入れた物(例: 花瓶など)を置かないでください。
-  スピーカーを台車に載せて移動させるときは怪我をしないように注意してください。台車がバランスを崩してひっくり返らないように気を付けてください。
-  スピーカーは安定した平面に設置してください。
-  常に安全の確認されたケーブルを使用してください。欠陥のあるケーブルはスピーカーを傷付ける恐れがあります。ノイズ、ブツブツ音、パチパチ音の原因になります。



オーディオコンポーネントの清掃に可燃性の化学薬品は決して使用しないでください。



製造元の指示に従って設置してください。



本製品を極端な高温または低温にさらさないでください。本製品は決して爆発性雰囲気の中で操作しないでください。



高SPL(音圧)は聴覚障害の原因になります。大音量で使用するときは、スピーカーに近づかないようにしてください。



トランスデューサーは電磁場を放射しますのでご注意ください。磁気に弱いモノはスピーカーから0.5 m以上離してください。



十分に冷却するため、スピーカーの背後と壁間を100 mm(4インチ)以上離して自由な空気の流れを確保してください。



火を灯したロウソクなど、裸火をスピーカーの上に置かないでください。



本装置を水の近くで使用しないでください。



乾いた布で拭いてください。



ラジエータ、熱風の吹き出し口、ストーブ、その他熱を発生する機器(アンプを含む)などの熱源の近くに設置しないでください。



製造元指定のアタッチメント/アクセサリのみを使用してください。



修理は資格のあるサービス担当者に依頼してください。電源コードやプラグが損傷している、液体をこぼしてしまった、物が落下した、雨や湿気にさらされている、正常に動作しない、落としてしまったなど、装置が何らかの損傷を受けた場合は修理が必要です。



移動中は、サブウーファーの下にケーブルなどのトランスデューサーに触れる可能性のある物が無いことを確認してください。音に影響を及ぼし、シャーシを損傷する可能性があります。

2. T10S SUBWOOFER のご紹介

革命的なデザイン

1999年の創業以来、ベルリンを拠点とするADAM Audioは信頼性の高い高性能ニアフェレンスモニターの製造メーカーとして、国際的に評価され注目を集めています。解像度の高い音質が評価を受け、ADAMのモニタースピーカーは世界中のトップレコーディングスタジオのエンジニアによって使用されるようになりました。

T10Sは、パワフルかつコンパクトなアクティブ・サブウーファーで、

あらゆるニアフィールド・モニターの低音域レスポンスを拡張するように設計されていますが、T10Sサブウーファーの性能、機能、および接続性は、ADAMオーディオのTシリーズ・スピーカーを特に補完するように設計されています。

さまざまな接続方式とコントロール

T10Sサブウーファーの背面には、総合的なコントロールとアナログ入出力コネクタを備えた頑丈なメタルバックプレートが取り付けられていて、事実上あらゆるスピーカーシステムで使用することができます：

- バランスXLRコネクタとアンバランスRCAコネクタが2chずつ設けられており、+ 4 dBuまたは-10 dBVで動作するミキサーやI/Oボックスと接続して使用できます。
- T10S背面パネルに設けられた3種類のクロスオーバースイッチでサブウーファーを様々なシステム要件に適応させ、クロスオーバー周波数を選択したり、外部クロスオーバーを使用することができます。
- T10Sサブウーファーには独自のレベルコントロールがあります。これは、サブウーファーの出力レベルと接続しているスタジオモニターのバランスをとるのに特に便利です。
- 背面パネルのフェーズスイッチは、システム内に接続しているスタジオモニターとの適切な音響調整に使用します。
- T10Sは、50/60 Hzで100 V～240 Vの範囲のAC電源電圧を自動的に受け入れます— 差し込むだけですぐに使用できます！

T10S背面パネルの接続端子とコントロールの配置図は、このマニュアルのセクション3を参照してください。背面パネルの接続とコントロールの最適な使用法は、このマニュアルのセクション4とセクション5で詳しく説明しています

3. サブウーファーの最適な配置

人間の聴覚では低域周波数(おおよそ100 Hz未満)をうまく捉えられないことはよく知られています。つまり、リスナーは低域周波数の音がどこから発生しているのか判別することはできません。しかしながら、それを理由にサブウーファーの配置が耳に届く音の再生品質に影響しない、と考えるのは誤解です。サブウーファーは周囲の環境と互いに影響し合うので、その配置は非常に重要です。

以下の説明は、同じ部屋(形状、家具など)はひとつとしてないという事実に基づいて、サブウーファーの配置に関する一般的な内容に留めています。その目的は、サブウーファーと室内音響に関する最も頻繁に起こる問題、特に干渉波と定常波の問題への対策をサポートすることです。

3.1 サブウーファーの配置

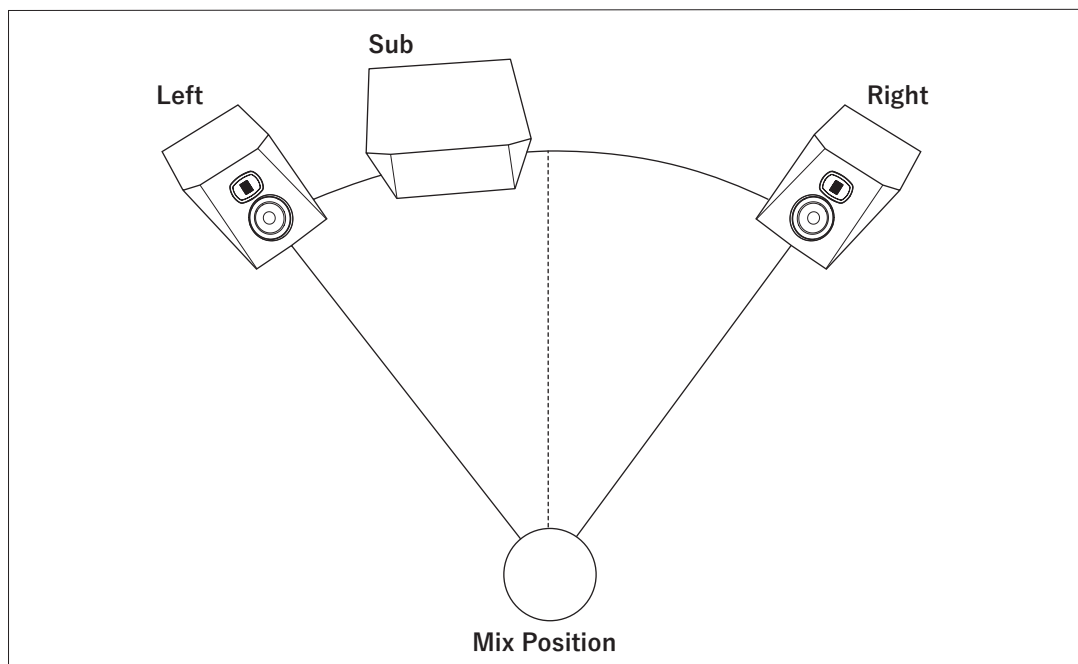
T10Sは、スピーカードライバーを下向きにしてキャビネット底部に設置した、ダウンファイヤー型のトランスデューサーを使用しています。サブウーファーの足は機械的・音響的に必要な空間を作り出します。

移動中は、サブウーファーの下にケーブルなどのトランスデューサーに触れる可能性のある物がないことを確認してください。音に影響を及ぼし、スピーカーを損傷する可能性があります。

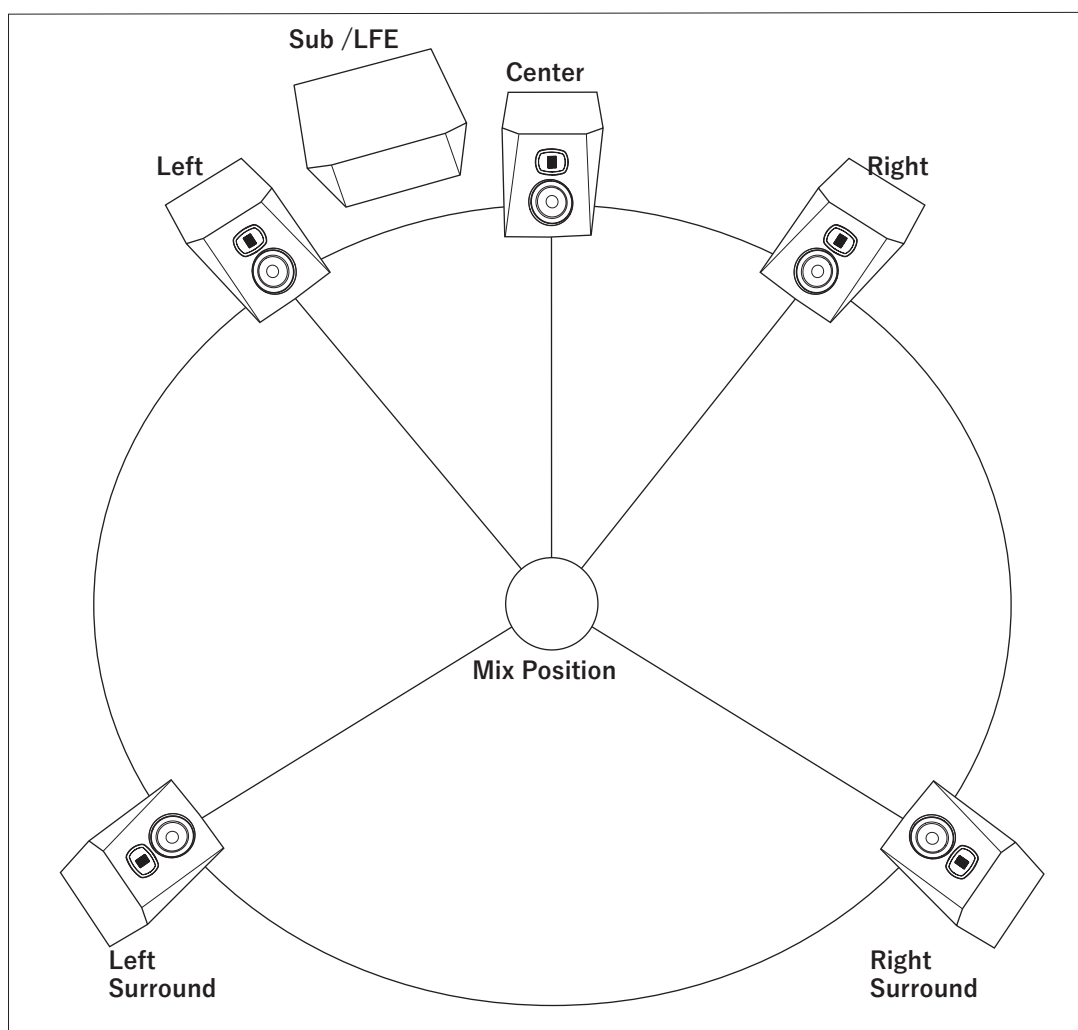
3.2 モニタースピーカーとの位置関係

ほとんどのセットアップでは、メインモニターとサブウーファーを組み合わせたシステム全体としての性能を最大限引き出すために、サブウーファーをメインモニターから余り遠くに設置しないようにお勧めします。ステレオシステムでは、サブウーファーを2台のメインモニターの間に配置することをお勧めします。音響的・構造的な理由(スピーカー間の中央スペースを占めるビデオモニタースタンドなど)から、サブウーファーはどちらか一方のスピーカーの近くに寄せて配置するとよいでしょう。

いずれにしても、まずサブウーファーとメインスピーカーをメインリスニング位置から等距離に置き、そこから配置を決めるのがベストです。



通常のセンターチャンネルを備えたサラウンドサウンドシステムの場合、左右どちらかの中央に近い位置から始めるとよいでしょう。ステレオセットアップの場合と同様に、わずかな位置変更で全体的なリスニングパフォーマンスが向上する可能性があります。



3.3 壁/壁までの距離

一般的に、サブウーファーに比較的近い距離に壁があると、音圧が約6 dB上がります。ただし、床に直接置いた場合の影響は、T10Sの設計段階ですでに考慮されています。たとえば、サブウーファーを部屋の隅に置くと、約12 dB上がります（壁Aと壁Bそれぞれ6 dB）。こういった場合、サブウーファーのラウドネス効率は向上しますが、オーディオ再生の精度は低下する可能性があります。

サブウーファーを設置するにあたっては、まずはモニタースピーカーとサブウーファーをリスニングポジションから等距離の場所に設置してみてください。左右のモニタースピーカーの間に配置することが一般的です。スピーカーシステムが組み上がり、音が鳴るようになったら、他の位置でも実験して最高のパフォーマンスが得られる位置を探してみましょう。

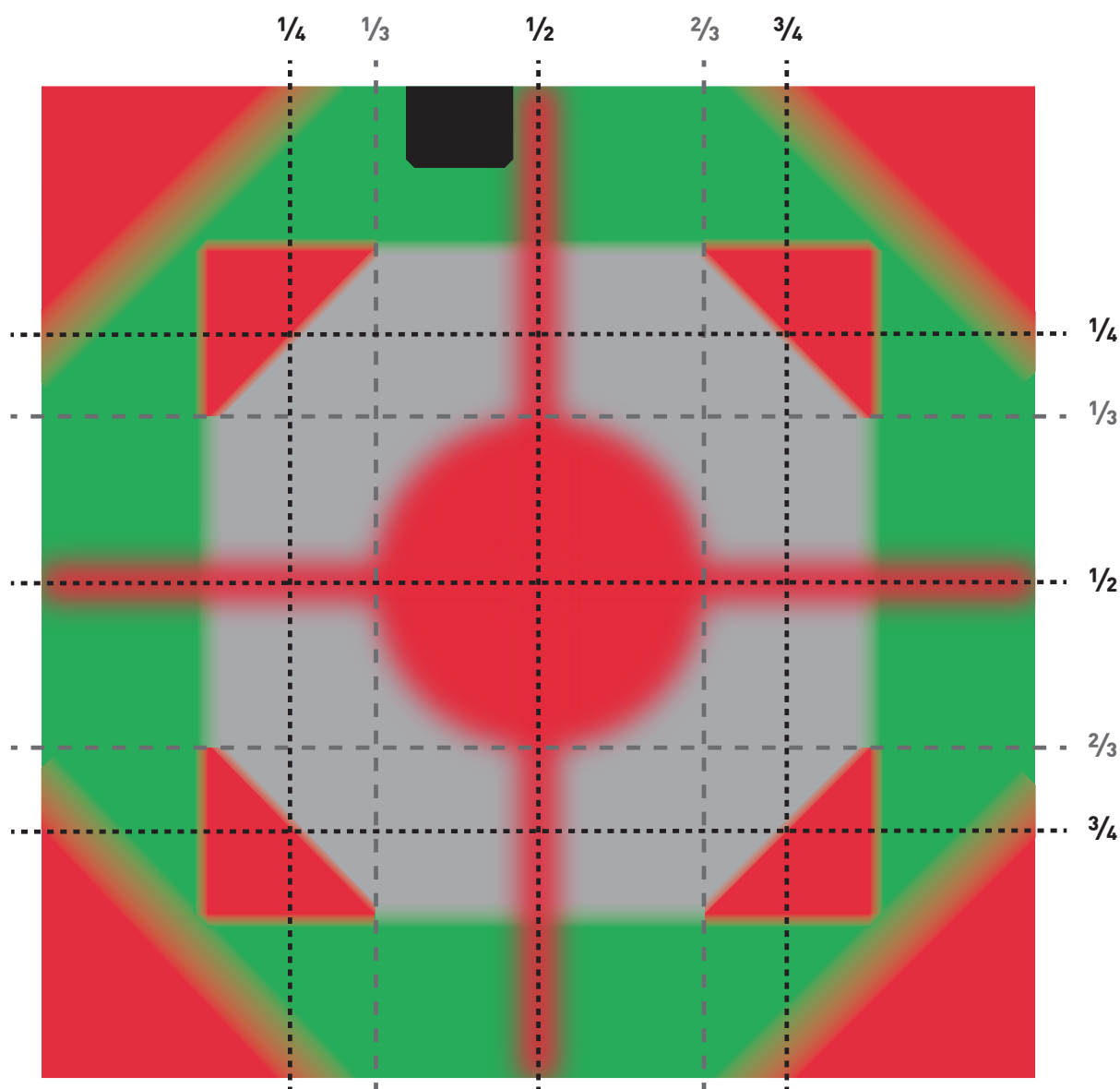
部屋の形状に関するもうひとつの問題に、「定在波」または「ルームモード」があります。これは反射物の間を往復運動する音波です。つまりこの音波は物体の間に「立っている」（動いていないように見える）のです。つまりこの音波は物体の間に「立っている」（動いていないように見える）のです。スピーカーは新しい音波を出し続け、その音波と最初の音波の力が組み合わさります：その結果、部屋にホットスポット - ある低音の周波数が大きすぎる場所、逆に特定の周波数がほとんど聴こえない静かな場所 - が生じる悪循環が生まれます。

このホットスポット/クワイエットスポットのパターンは周波数ごと、部屋ごとに異なります。

3.4 最適な位置を見つける

色々なセッティングを試してみましょう！サブウーファーに最適な位置を見つけるにあたって最も重要なツールはあなたの耳です。

この図はサブウーファーの配置アイデアを示しています。緑色の領域は最もうまく機能する可能性が高く、赤色の領域は上記の定在波の問題が発生しがちです。



Subwoofer placement map based on the footprint of a square room

■ avoid position
 ■ suggested position
 ■ not ideal

4. 機能



[1] 電力ステータスLED – 電力インジケータ:本体前面のロゴの隣。

- 赤色の「Standby(スタンバイ)」は、T10Sが電源と接続され電力が供給されており、パワーアンプを起動する準備が整ったことを示しています。
- 緑色の「Active/On(アクティブ/オン)」は、T10Sの入力回路が入力信号を検出するとLEDが緑色に点灯します。プログラムが停止した後、アンプは15分間アクティブのままになり、その後赤色のスタンバイモードに戻ります。



[2] クロスオーバー周波数 – 3つの設定が用意されています: 80 Hz、120 Hz、Bypass(バイパス)。

- 80 Hz ADAMオーディオのTシリーズ・ニアフィールドモニターまたはその他のプロ用モニターにこの設定を使用します。
- 120 Hz。この設定は、十分な低域再生能力がない小さいスピーカーや、シネマx.1 LFE (Low Frequency Effects)チャンネル規格に従ったモニタリング・システムに使用します。
- Bypass (バイパス)。外部クロスオーバーまたはベースマネジメント・システムを使用するときにこの設定を使用します。

[3] 位相スイッチ – 2つの設定が用意されています:0°と180°

- 0° 位相スイッチを0°の位置に設定すると、サブウーファーは入力信号と同位相でオーディオを再生します。
- 180° 位相スイッチを180°の位置に設定すると、サブウーファーは入力信号に対して180°の位相シフトまたは反転位相でオーディオを再生します。

位相設定は、接続されているモニタースピーカーに供給する音声スルーパスには影響しません。

[4] レベルつまみ

このつまみを時計回りに回すとサブウーファーの音量が上がり、反時計回りに回すと音量が下がります。ほとんどの場合「0 dB」が最適な設定です。ADAMオーディオTシリーズモニターの「0」マークと一致します。

[5] コネクタのBAL

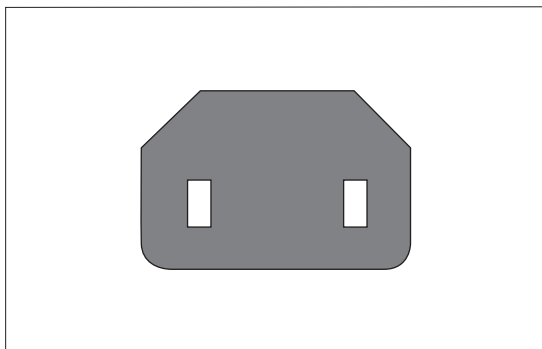
このXLRコネクタは、プロ用のオーディオミキサーやオーディオインターフェイスに見られる、+ 4 dBuのバランス方式の信号を伝送します。

[6] コネクタのUNBAL

このRCAコネクタは、一部のオーディオインターフェイス、家庭用電化製品、AVR、またはコンピューターのサウンドカードに見られる、-10 dBVのアンバランス方式の信号を伝送します。

[7] 主電源ケーブルコネクタ

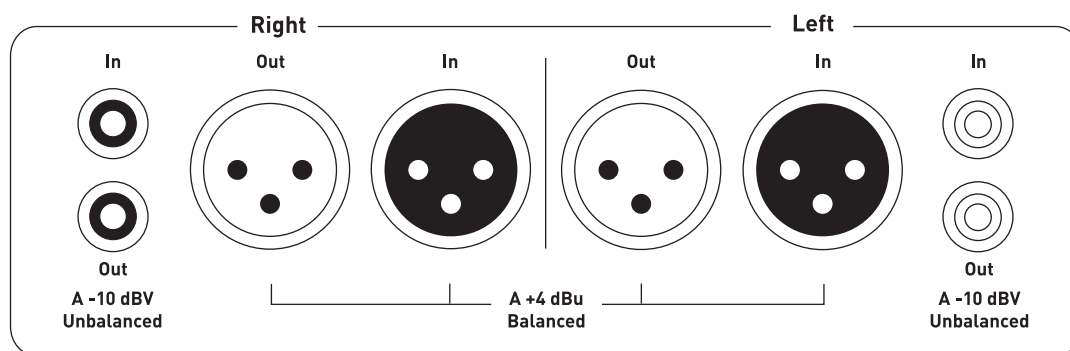
T10Sには、IEC 60320 C17電源ケーブル用の接地されていない2ピン主電源コネクタが搭載されています。



5. オーディオ接続とレベルの設定

T10Sサブウーファーにはアンプが内蔵されているので、外部アンプによる増幅を必要としません。T10SはミキシングコンソールおよびDAW用のバランス型とアンバランス型の両方のI/Oボックスに直接接続できます。すべてのTシリーズ・スピーカーは、電源が100～240 V/50/60 Hzであれば自動的にAC電源接続するので、ユーザーによる電圧スイッチ設定が不要です。

T10Sサブウーファーの背面パネルにあるXLRコネクタとRCAコネクタは、それぞれバランス型+4 dBuとアンバランス型-10 dBVの入力レベルに対応しています。



XLRコネクタの配線は業界標準規格に従います:ピン1はアース、ピン2はポジティブ(ホット)、ピン3はネガティブ(コールド)です。

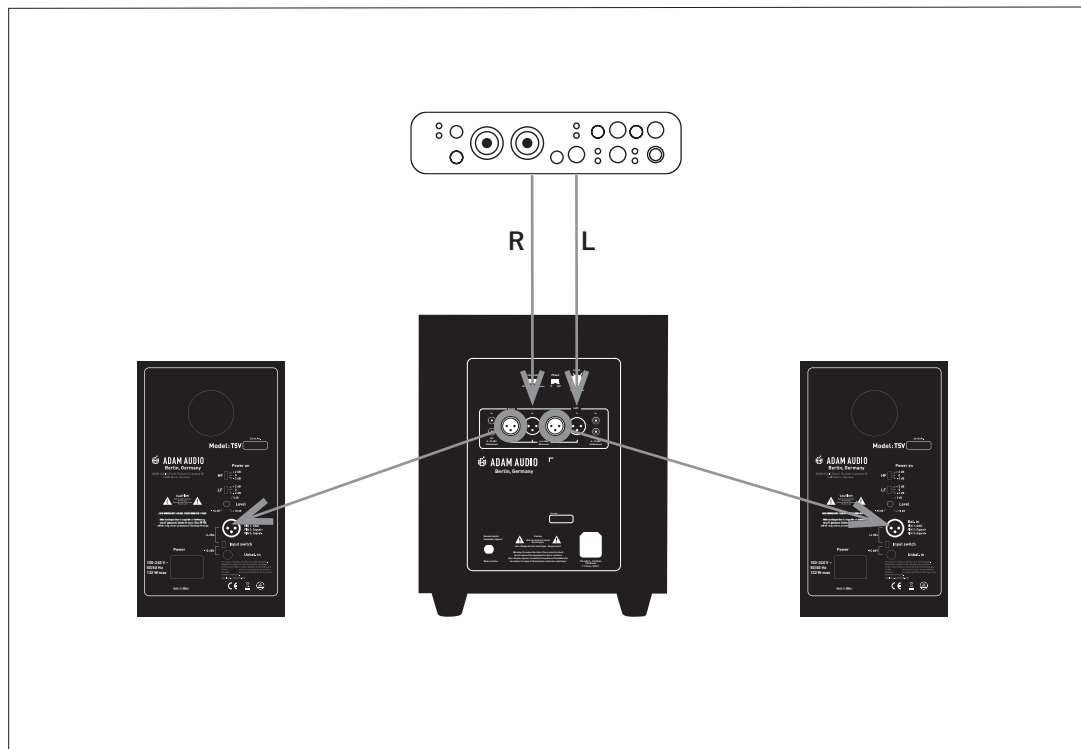
RCAコネクタは業界標準規格に準拠しています:ピンはポジティブ(ホット)、スリーブはアースです。

T10Sサブウーファーは次の簡単な手順で使い始めることができます:

- T10Sサブウーファーを接続する前に、電源コードが外れていること、レベル・コントロールつまみが反時計回りいっぱいまで回っていることを確認してください。また、サブウーファーに接続する機器の電源が切れていること、出力レベルコントロールがある場合はそれが完全にオフになっていることを確認してください。
- ミキサー、I/Oボックス、またはその他の機器からバランス型+4 dBuアナログ信号をT10Sに入力する場合は、サブウーファーの左右のXLR入力コネクタを使用します。
- ミキサー、I/Oボックス、AVR、またはその他の機器からアンバランス型-10 dBuアナログ信号をT10Sサブウーファーに入力する場合は、サブウーファーの左右のRCA入力コネクタを使用します。

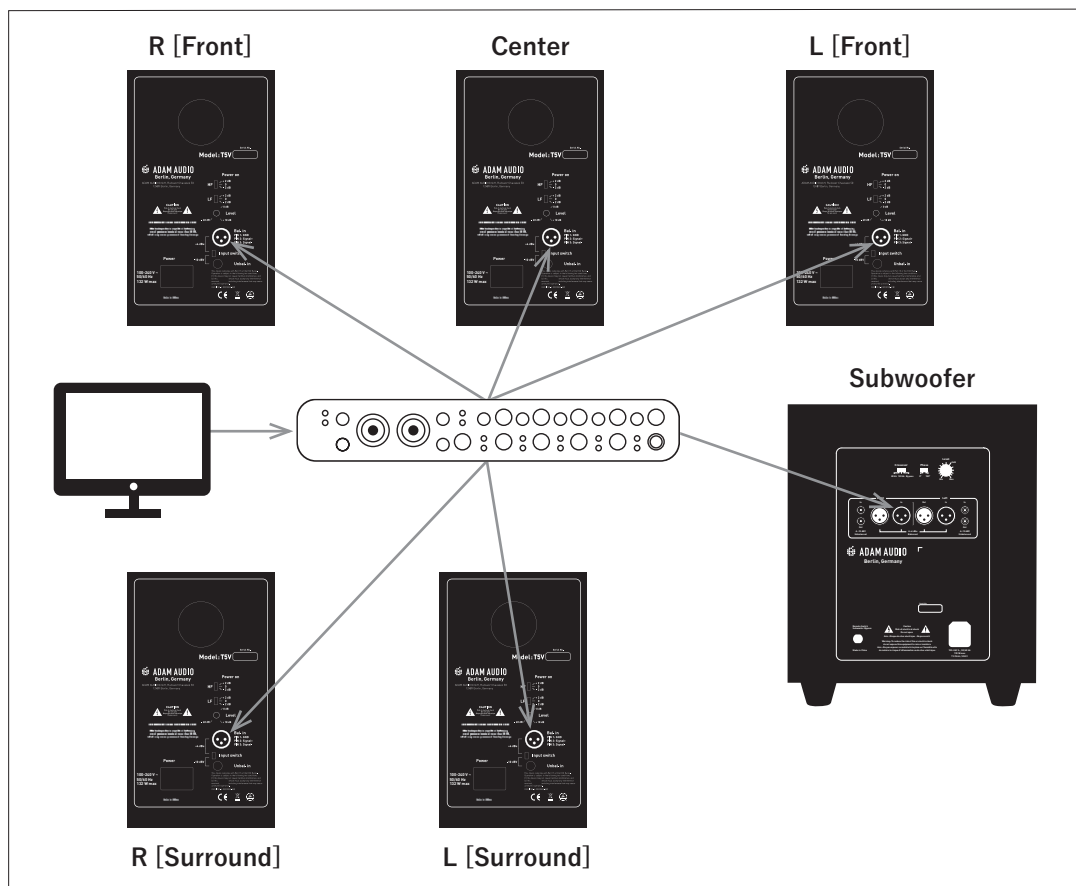
シナリオA - ステレオミキサーまたはDAWとの接続:

- T10Sの出力コネクタからメインのモニタースピーカーの入力コネクタへ接続します(XLRからXLRまたはRCAからRCA)。
- T10S CROSSOVER FREQUENCY(クロスオーバー周波数)を80 Hzに設定し、PHASE(位相)を0°に設定し、LEVEL(レベル)コントロールを最小設定(反時計回りいっぱい)に設定します。



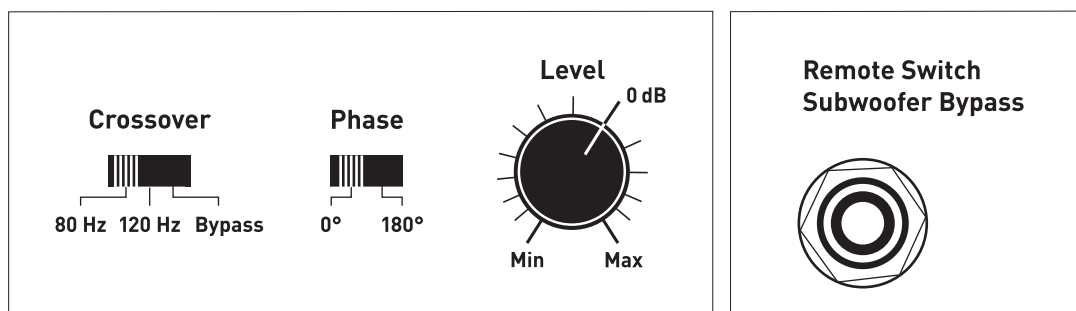
シナリオB - 外部のベースマネジメント・システム、サラウンドシステムまたはAVRとの接続

- T10S CROSSOVER FREQUENCY(クロスオーバー周波数)をBYPASS(バイパス)に設定し、PHASE(位相)を0°に設定し、LEVEL(レベル)コントロールつまみを最小設定(反時計回りいっぱい)に設定します。
- すべての接続が完了したら、スピーカーシステムに信号を送信する機器の電源を入れます。
- T10Sの電源コードを差し込みます。信号が再生されていない状態では、POWER STATUS LEDは赤く点灯します。



- モニタースピーカーをオンにします。
- モニターシステムに信号を送信する装置に出力レベルコントロールがある場合は、それをノミナルレベルまたは通常設定している値に設定します。
- 音声を再生しながら、サブウーファーのレベルコントロールをゆっくり上げます。入力信号を検出するとPOWER STATUS LEDが緑色に点灯し、Level(レベル)コントロール設定を上げるとT10Sサブウーファーから音声が聞こえ始めます。メインスピーカーのレベルに合わせてT10Sの設定を調整してください。
- 重要なプロジェクトで使用する前にサブウーファーの最適なパフォーマンスを得るためには、低域信号を十分に含む音源を、適切なリスニングレベルで最低でも8時間程度再生し、エージングを行うことをお勧めします。
- 各セッションの終わりに、T10Sサブウーファーに接続されている機器の電源を切ってください。15分後に自動電源回路がアンプをスタンバイに切り替え、POWER STATUS LEDが赤色に変わります。

6. 背面パネルのクロスオーバー、位相、レベル、リモートコントロールを使う



背面パネルには、CROSSOVER(クロスオーバー)周波数、PHASE(位相)、LEVEL(レベル)の各コントロールに加え、REMOTE BYPASS(リモートバイパス)フットスイッチを接続するためのプラグの差込み口があります。次の説明は、これらのコントロールを最も適した方法で使用するためのヒントです。

LEVEL(レベル)

バランス型XLR入力経由で使用する場合は775 mVに対して-60 dBu～+ 16 dBu、アンバランス型RCA入力経由で使用する場合は1 Vに対して-60 dBu～+ 6 dBVの入力感度コントロールを行います。

CROSSOVER(クロスオーバー)

本製品の再生帯域の上限周波数は可変で、80 Hzまたは120 Hzに設定できます。サブウーファーが無くても使用に差し支えないモニタースピーカーには80 Hzの設定をお勧めします。低域再生能力の少ない小型のモニタースピーカーを使用する場合、またはシネマ規格に準拠してモニタリングするための“.1” LFE(Low Frequency Effects)チャンネル用として使用する場合には、120Hzの設定を使用してみてください。

多くの場合、低いクロスオーバー周波数を選択すると、タイトな低音とクリーンなミッドレンジレスポンスが得られます。

BYPASS(バイパス)

ポジションは、外部のベースマネジメントを利用するシステムや、再生システム内の他の部分でクロスオーバーが設定されている場合に適しています。これには、モニターコントローラー、またはDAW用のサラウンドサウンドプラグインの使用が含まれます。

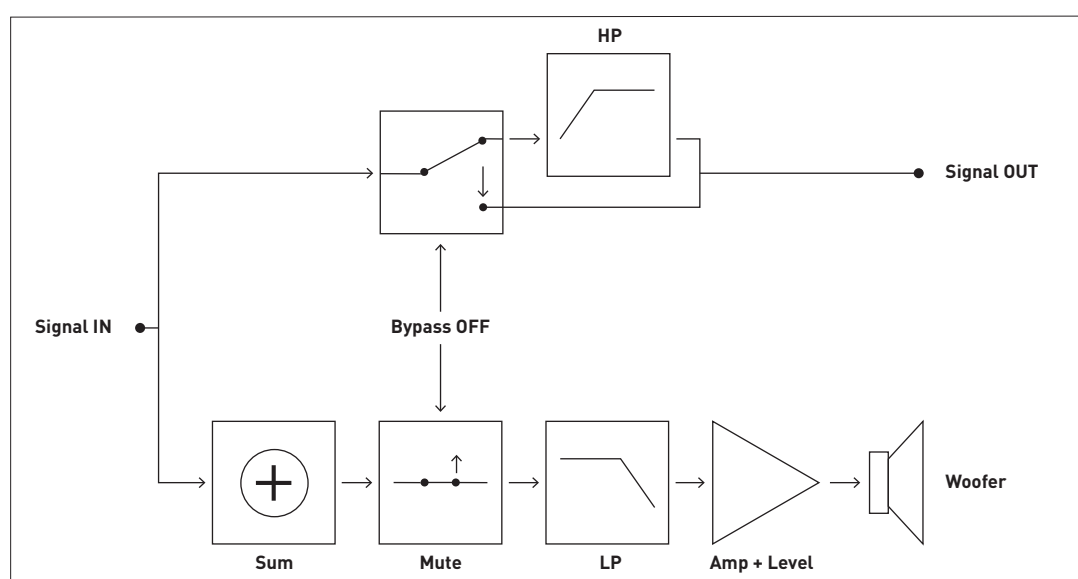
PHASE(位相)

PHASE(位相)スイッチを使用すると、モニタースピーカーに送信される信号を基準にして、サブウーファーによって生成されるサウンドの位相を変更することができます。つまり、サブウーファーから出力される音の極性を変えられます。

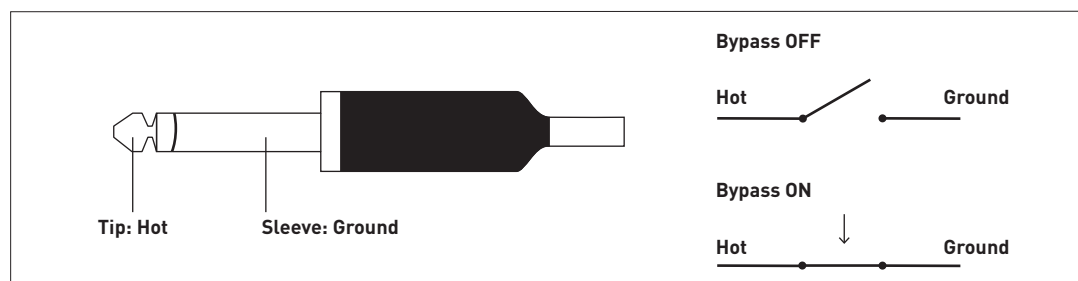
リスニングスポット、サブウーファーとモニタースピーカーの設置位置、および接続されているモニタースピーカーの仕様によって、0°または180°のいずれかが最適となります。

システムの位相が揃っていない場合、クロスオーバー周波数付近でエネルギーが不足することになります。聴感上では、中低域とアッパーベース帯域の音量が弱くなるか聴こえなくなります。位相設定を切り変えてみて、より豊かなサウンドが得られる設定を使用してください。

REMOTE SWITCH SUBWOOFER BYPASS (リモートスイッチ・サブウーファー・バイパス)



このコネクタで、1/4インチ(6,3 mm)モノラル(TS)ジャックを使用してリモートスイッチを接続し、サブウーファースのバイパスモードを切り替えます。回路を閉じると(ジャックの2つのピンを接続すると)、サブウーファースがミュートになり、サテライトフィルターもオフになり、サテライトスピーカーがフルレンジで再生され、サブウーファースのないシステムでリスニングが可能になります。これはミキシング・プロセス中に特に便利な機能です。回路の開閉には、電子キーボードの付属品として設計された標準的なフットスイッチを利用できます。



7. トラブルシューティング

サブウーファーで信号の喪失、不要な干渉、ノイズなどの問題が発生した場合は、次の基本的な確認を行ってから ADAM Audio のチームまたは当社の代理店に連絡してください。

→ **スピーカーから信号が出ていない、または歪んだ信号しか出ていない場合：**

- a] 問題がどこにあるかを考えてください。すべてのスピーカーが同じ信号の欠如または歪んだ信号を示している場合、問題はオーディオソースにある可能性が高いです。一方、影響を受けるのが単一の拡声器だけである場合、問題はその特定のスピーカーにある可能性が高いです。
- b] 可能であれば、配線とケーブルを調べて、問題なく動作していることがわかっている他のものと交換します。ケーブルが2本しかない場合は、ケーブルを交換したときに障害によってスピーカーが変わるかどうかを確認します。もしそうなら、問題はケーブルで発見される可能性があります。
- c] 信号ソースを確認し、サブウーファーをできるだけ直接ソースに接続します。障害は別のコンポーネント、例えば、シグナルパスのスピーカーの前に通常接続されているミキサーやプロセッサーなどにありますか？

→ **あなたのスピーカーが信号を出しているが、それは時々不必要な騒音（例えば、ざわめくような、ハミングやパチパチという音のような）の影響を受けている場合：**

- a] 上記のようにケーブルをチェックし、可能であればそれらを交換するか、またはそれらを交換して、障害も影響を受けるかどうかを確認します。
- b] スピーカーの近くに問題を引き起こす可能性のある電磁干渉の原因がないことを確認します[携帯電話、ワイヤレスルーター、電源、電気モーター、ヒーターなど]。

上記のいずれも問題の原因として特定できない場合は、スピーカーが故障している可能性があります。その場合は、ADAM オーディオまたは最寄りの代理店にお問い合わせください[リストについては、www.adam-audio.comを参照してください]。

8. メンテナンス

- お手入れの前にサブウーファーの電源プラグを抜いてください。
- スピーカードライバーは強力な電磁場を発生させることにご注意ください。磁気の影響を受けやすいモノは、50センチメートル(20インチ)以上離してください。
- キャビネットに液体が入らないようにしてください。濡れた布で清掃したり、スピーカーの近くで洗剤をスプレーしたりしないでください。
- T10Sの清掃には、可燃性または酸性の化学薬品を使用しないでください。
- 可能であれば、スピーカーコーンには触れないでください(柔らかいブラシでホコリを軽く払う程度をお勧めします)。
- 通常の清掃には、糸くずの出ない、軽く湿った布(濡れていない物)をお勧めします。
- 移動中は、サブウーファーの下にケーブルなどのトランスデューサーに触れる可能性のある物がないことを確認してください。音に影響を及ぼし、スピーカーを損傷する可能性があります。

9. 運送

サブウーファーを修理のために送る必要がある場合に備えて、ラウドスピーカーの梱包を保管することをお勧めします。元の梱包材が利用できない場合、損傷なしで出荷できるようにスピーカーを保護することは非常に困難です。ラウドスピーカーが移動中のとき、我々は不適當な包装から生じる損害に対して責任を負うことができません。

10. 環境情報

ADAMオーディオ製品はすべて、電気/電子機器に含まれる有害物質の制限(RoHS)および使用済み電気・電子機器の廃棄(WEEE)に関する国際指令に準拠しています。私どもは、T10Sサブウーファーを長年ご愛用いただくことを望んでいます - しかし、いずれその時が来たら、安全な廃棄方法に関して地方自治体にご相談のうえ、処分していただくようお願いします。

11. EU適合宣言書

ADAM Audio GmbH(登録事務所所在地: Rudower Chaussee 50, 12489 Berlin, Germany)は、その単独の責任において、本製品が以下の標準規格に準拠していることを宣言します:T10SはEU電磁適合性規則(EMC)指令89/336/EECに準拠しており、以下の規格が適用されています:

EN 61000-3-2/3、EN 55103-2



を含むEN 55032およびEU General Product Safety 2001/95/ECに準拠しており、次の規格が適用されています:DIN EN60065 7th.ED/A1/A2

この宣言は、製造プロセスの品質管理と製品文書が継続的なコンプライアンスを保証する必要性と一致していることを保証します。ユーザーは、オーナーマニュアルに詳述されている本製品の使用方法に関する特別措置について注意を向けるよう促されています。

クリスティアン・ヘリンガー

ADAM Audio GmbH 最高経営責任者

12. 保証条項

- この保証は、販売店の国内または地域の法律上の義務を補完するものです。国内代理店と顧客としてのあなたの法定権利に影響を与えません。
- 他の輸送手段、その他の費用、撤去、輸送のリスクがない製品の設置はこの保証の対象となります。
- シリアル番号が変更、削除、または製造された製品判読不能なものはこの保証から除外されます。
- 通常の保証期間は2年間で、購入日から有効です。のために
受取人が与えられているwww.adam-audio.com/en/my-adamによる製品登録登録製品に対する追加の3年間保証[36ヶ月]。
- 保証は、材料の欠陥および/または以外の場合には適用されません。購入時の技量と適用されません：
 - a] 誤った取り付け、接続または梱包によって引き起こされた損害について
 - b] に記載されている正しい使用方法以外の使用方法によって引き起こされた損害についてユーザーマニュアル、
 - c] 不完全または不適切な付属機器によって引き起こされた損害
 - d] 無許可の人が修理または修正を行った場合
 - e] 事故、落雷、水道、火災、公共の妨害による損害またはADAMオーディオの合理的な管理を超えたその他の原因。

保証期間中に修理を請求する方法

修理が必要な場合は、製品を購入したADAM Audioの販売店にお問い合わせください。機器が購入国以外で使用されている場合、国際送料は製品の所有者が支払う必要があります。

サービスは、居住国のADAM Audioナショナルディストリビュータによって提供される場合があります。この場合、サービス費用は製品の所有者が支払う必要がありますが、修理または交換される部品の費用は無料です。

最寄りの代理店の連絡先情報を入手するには、www.adam-audio.comにアクセスしてください。保証の有効性を確認するには、購入日の最初の売上請求書のコピーが必要です。

13. 技術データ

T10S

ウーファー	1 x 10" [260 mm], ダウンファイア
入力感度	切り替え可能 +4 dBu / -10 dBV
周波数応答	[-6 dB] 28 Hz – 80 Hz / 120 Hz / 300 Hz 【クロスオーバー周波数設定による】
Max. SPL at 1 m, hemisphere	104 dB
クロスオーバー周波数	3-way switch: 80 Hz / 120 Hz / Bypass
ユーザーコントロール	Crossover frequency Phase inversion Level dial Subwoofer Bypass
アンプ電源	130 W [RMS]
アナログ入力	2 x XLR 女性 [L+R], 2 x RCA 女性 [L+R]
アナログ出力	2 x XLR 男性 [L+R], 2 x RCA 女性 [L+R]
重量	12.2 kg [27 lb]
高さ×幅×奥行	390 mm x 318 mm x 413 mm [15.4" x 12.5" x 16.25"]
取り付けオプション	床置き、ゴム足
AC電源入力電圧	100 – 240 VAC +/- 10 % 50/60 Hz
リモートバイパス	via 6.3 mm [1/4"] TS jack. フットペダルは含まれていません
Warranty period	5年 [2年間の保証と3年間の製品登録(オプション)]

ADAM AUDIO GMBH

BERLIN, GERMANY

T +49 30-863 00 97-0

F +49 30-863 00 97-7

INFO@ADAM-AUDIO.COM

ADAM AUDIO UK

EMAIL: UK-INFO@ADAM-AUDIO.COM

ADAM AUDIO USA INC.

EMAIL: USA-INFO@ADAM-AUDIO.COM

T10Sサブウーファー・マニュアル © ADAM Audio GmbH 2019

ここで提供される情報については正確を期すためにあらゆる努力を払っていますが、いかなる誤りまたは見落としに対してもADAM Audio GmbHは責任を負いません。

仕様は予告なしに変更されることがあります。

WWW.ADAM-AUDIO.COM

